別紙様式

実践事例

学校名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

1　実践の概要

（1）取り組みのねらい

○各生徒の心情面等を定期的に把握するため。

○「いじめ」等の諸問題に対して職員、生徒が全体で取り組めるようにするため。

○多くの場面で活躍する場を設定し、各生徒に自己存在感を与えるため。

○保護者との信頼関係を深く保ち、保護者と学校が一体となって学校教育に携わるため。

（2）取り組みの内容

○定期的に「生き生き協議会」（生徒会が中心となって行う生徒主体の話し合い）を開き、生徒の声を聞く場を設けている。（校長、教頭、学年主任、生徒指導主事も参加）

○運営委員会や生徒指導協議会等で各学年の諸問題について話し合い、職員全体があらゆる場で多くの接点を持てるように心がけている。

○定期的な個人面談や三者面談だけでなく、担任が必要に応じて面談を行い、個々生徒の悩みを早期発見できるようにしている。

○学年行事（登山・バーベキュー等）を各学年とも行っており、学年役員を中心に学年行事をすすめていただき、保護者、生徒、職員が一丸となって活動する場を設け、充実感などを共に味わうことができるようにしている。

2　実践の成果（態度・心情面やいじめの解決など）

○保護者との信頼関係をしっかりと保つことで、「いじめ」が発覚したとき、保護者の協力を得ながら解決までもっていくことができた。また、保護者の理解力が高かったため、生徒本人も本気になって自己を高めようと他の面（学習・部活動）に関しても意欲的に取り組むことができるようになった。具体的には、担任始め、養護教諭等が定期的に家庭訪問を繰り返し、話しを多く聞くことで、特に「いじめられた側」の保護者は協力的になってきた。

○全校朝会や学年朝会の場で、学校長始め担当教師等が「いじめ」等の諸問題について全校生徒に呼びかけることで、生徒全体の「いじめ」に対する意識を高めることができた。

○「生き生き協議会」では、「いじめ問題」が話題に出たときは、生徒会が「いじめ」に関するスローガンを立ち上げ、昇降口にスローガンを掲げるなど、生徒が主となって「いじめ問題」に取り組むことができた。

３　取り組みの評価（対応についての評価）

○定期的な生活状況アンケートは、生徒個々の生活面での悩み等が早期発見できた。

○「生き生き協議会」においては、生徒が主体となって「いじめ問題」についての話し合いをすすめ、各学級の意見を吸い上げるなど、とても意義のある話し合いがすすめられた。また、生徒会で「意見箱」を校舎内に設置し、多くの生徒からの要望などを吸い上げることができた。

○ＰＴＡの保護者会等で学校長が保護者向けに「いじめ問題」についての取り組み状況を説明し、保護者に対する意識の向上と理解を仰ぐことができた。

４　実践に関する資料（学習カード等）

○生活状況アンケート調査で実施したアンケート。

生活状況アンケート

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

※下のアンケートについてあてはまる方を○で囲んでください。

Ｑ１　学校がつまらないと感じますか？

はい　　いいえ

Ｑ２　上級生（　　）になって不安なことがありますか？

はい　　いいえ

「はい」と答えた人は、どのようなことが不安なのか記入してください。

（　　）

Ｑ３　最近、生活全体を通して困っていることはありますか？

はい　　いいえ

「はい」と答えた人は、どのようなことに困っているか記入してください。

（　　）

Ｑ４　最近物が壊されたり、無くなったことがありますか？

はい　　いいえ

Ｑ５　他に何か相談したいこと【いやがらせやいじめについても含む】があれば記入してください。特になければ、「　　」と下の枠内に*3回*記入してください。

※ご協力ありがとうございました。